

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號二五三第・日廿月二十輯編局報情

眞實週報

時の立札 銃後の戦ひにも悔いを残すな 體當りだ

バレンバンに天降の大神兵が決戦のレ
イナ島に再び出陣だ。禮重より重の奪
獲のほかに機動隊を誘へ、意氣軒坤と
乗込も高千穂隊下部隊勇士
○基地 影影 金澤 渡辺班員





決戦の秋

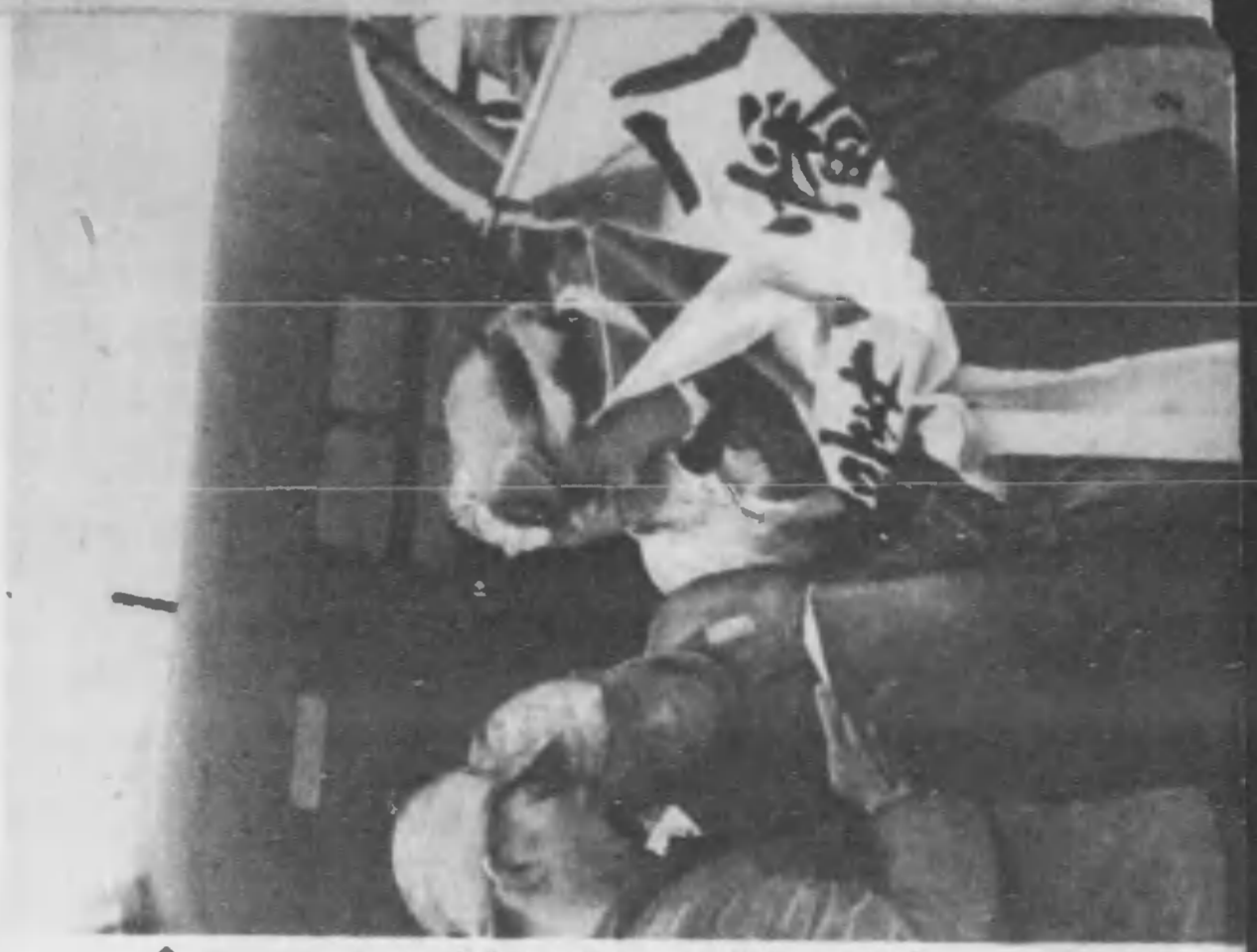
既にわが軍のために甚大な損害を蒙つたレイテ島の戦は、苦戦に陥つても、なほ強引の補給攻撃を続けてゐる。わが軍の補給線は、断絶せんとするカモテス湾の出撃や、ベイベイ及びアルブニラ附近の新上陸作戦等は、これら敵の旺盛な意の表れであつて、一瞬の油断もならない。

これに對し、わが軍は九連日の悪天候を伺いて出撃する陸海軍特別攻撃隊諸勇士を始め、航空部隊の猛攻等によつて、レイテ島内の敵艦船及び敵の飛行場等を破壊し、地上部隊の力に相俟つて、逐次敵を駆逐してゐる。

殊に十二月六日夜、わが強力な「高千穂隊」は突如としてレイテ島の敵飛行場数ヶ所を襲撃し、或は落下傘降下により、ま

◁ 陸軍特別攻撃隊の足掻きを受け、敵軍は中絶を企圖して腹心機員は激闘を繰り出し、必死の空へ！
撮影 佐藤重直軍員

◁ キラリと光る銃口の真横もの凄く、敵機を直撃し、炎を噴ける高千穂隊の勇士たち
撮影 佐藤重直軍員



◁ 艦隊を襲撃するサイベン島基地に突撃を加へて無事脱走し、重傷を負つた八幡隊の勇士
撮影 小沼重直軍員

なは強行着陸によつて敵陣に殺到し、大なる戦果を収めつゝ敵と激戦中である。

この秋、わが神州本土も遂に戦雲の汚すところとなり、マリアナ諸島の基地を襲撃した敵は、十一月二十四日午後七時機をもつて帝都附近に襲撃したのを手始めとして、爾後数回に亘り、晝夜の別なくわが本土を襲ひ、高々度より直撃を加へてゐる。

わが制空隊は特別攻撃隊「大剣突隊」を

中心とし、來襲の敵機に随分攻撃を敢行してこれを撃墜し、敵の心算を寒からしめ、また陸海航空部隊は機先を制して、しばし長崎敵基地たるサイベン島を襲撃し、決死本土の守護に當つてゐる。

かくて此島の日本決戦と進行して、わが本土の空襲も日と共に激化を来すとされるとき、われ等はいよいよ決戦生活に臨み、各職域に随分精神で奮闘しなければならぬ。

機師で機師を
説明しつゝB2の
機師を撃つる要天
制空機員の間には
激戦が送る人ばあ
りだ



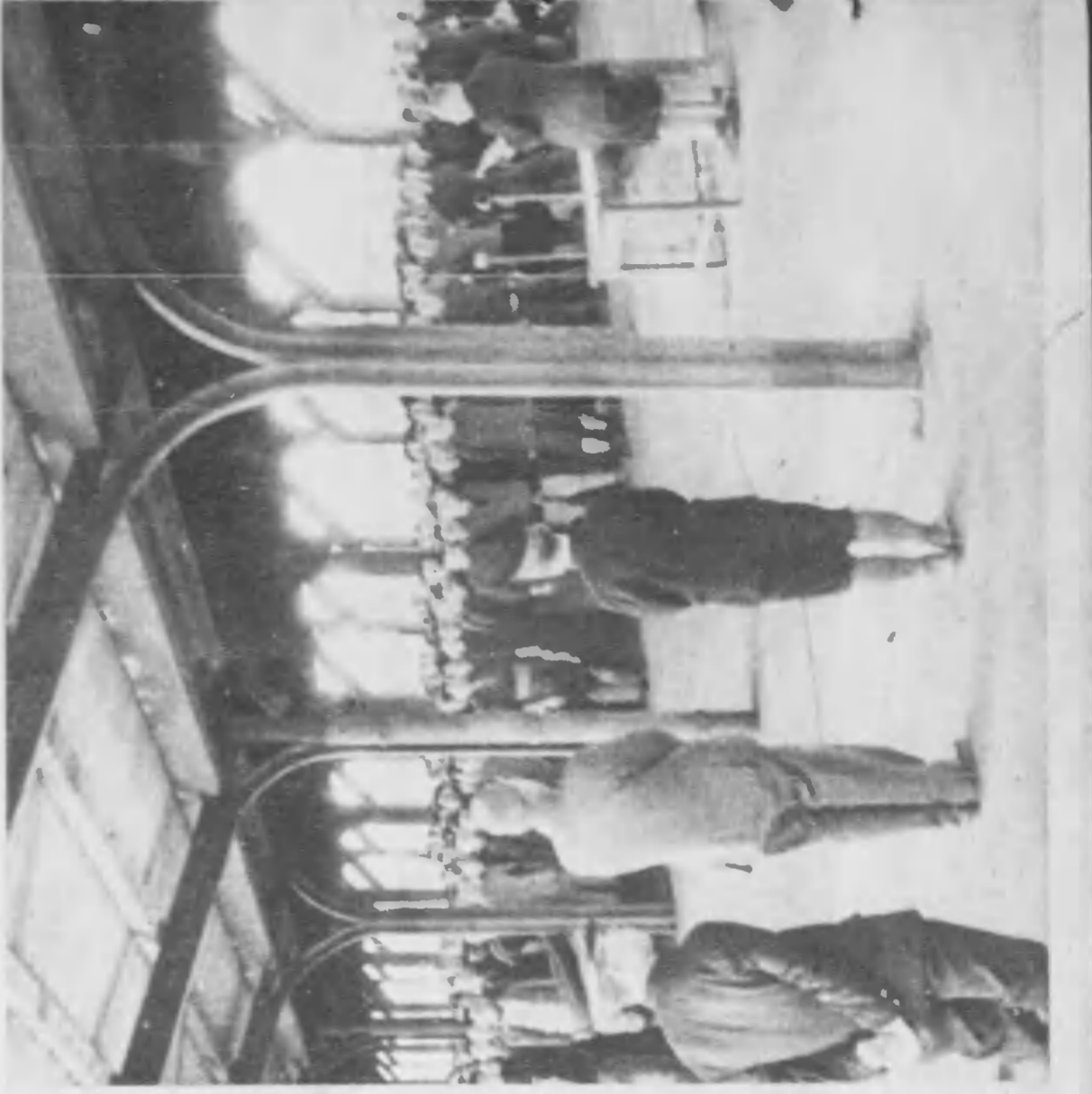


四度十二月 八日を迎ふ

防空服を身に固め、必勝を祈りに祈る民衆の群は、陸
組としてあまを絶えない。四度十二月八日を迎へて――

十二月十一日、東京都の隅田川畔を舞めた六百名の人
の波こそ、非難に燃起した荷役労働者であつた。神野大
日本労働組合連合会長の激闘の跡に、船乗り要員を率つたこれ
ら法被派の労働者は、神給の命ともいふべき荷役を背背
負つてゐるのだ。自衛的に公休を要求し、夜間作業は頑
張り、突撃隊を結成して余力があれば、他の野の労働一
線にまで輩出してゐるこの力闘は、レイナの組織精
兵そのまゝの組織しきだ

四度迎へた十二月八日の仕事日、全国の航空兵器工場
では、この日を飾るにふさはしい神風手拭投擲式が、一齊
に行はれた。神風特別攻撃隊員が多数の集場に當り、航
空機増産の「助」にもと、戦後に寄せた献金が患患の連と
もる手拭となつて、戦後の生産に神風を捲き起すのだ。
神風の生産に神風の日の丸、軍用航空機製造局の航空機
海中の増産になる神風の二客も鮮かな手拭が、この日
から航空機製造工場の細に「われら増産の神風ならん」と
の決意を込め、神風特別攻撃隊に必ず続くの決意を――



勇ルウバラ 世か活ニ後銃

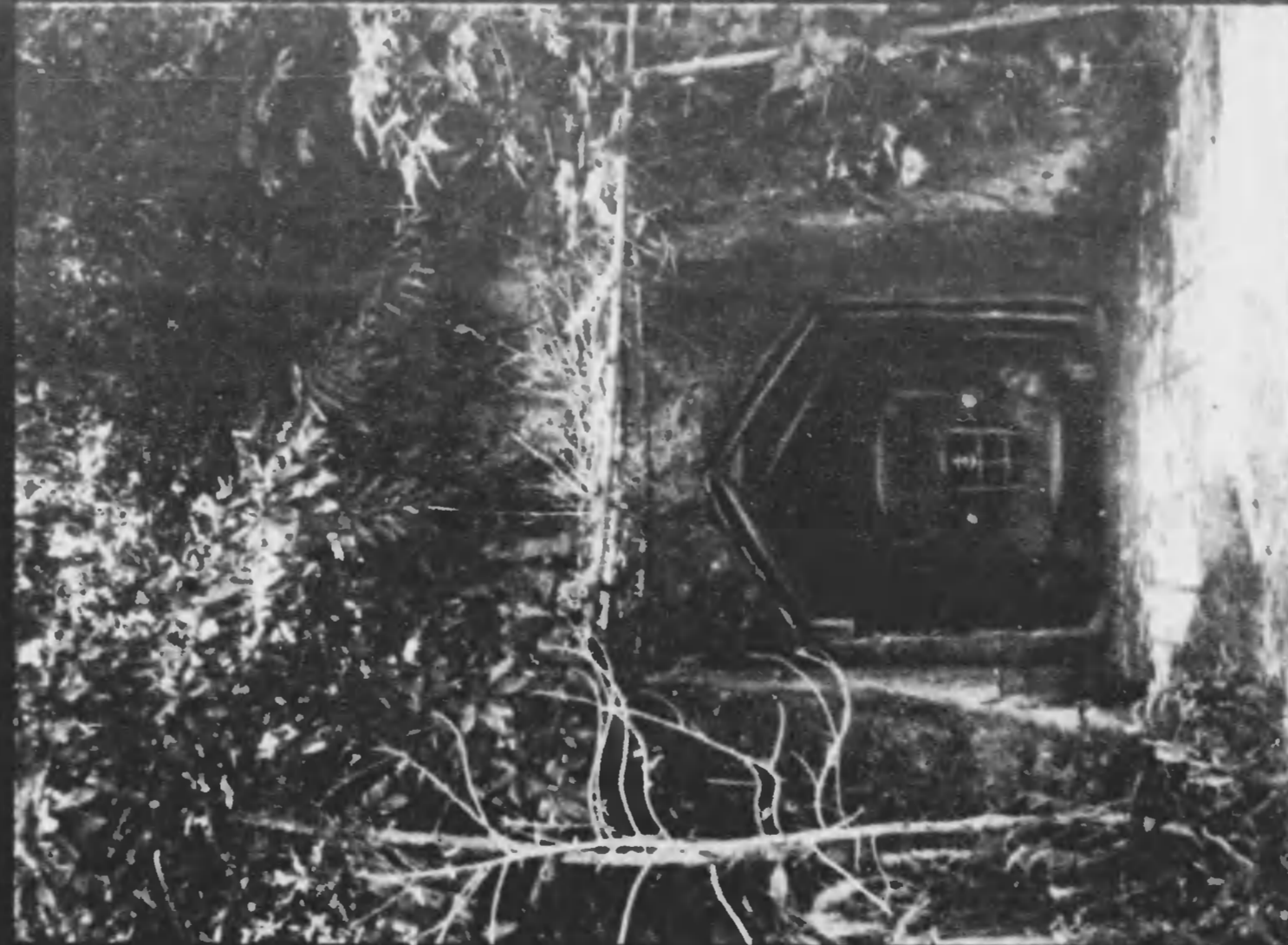
南洋



● 稀しいマツリノ草に蜂へ蜂子の皮を塗って殺虫剤をつくられ、キーネは毒石皮なくても代用品の薬ができたほか、手術室をもつ南洋一の地下野戦病院があつて、病気を負傷兵も心配はない



● 南海のラペウルでは、本年初め、刺殺事件が彼の手に出し、飛行場はもちろんで、市街、物資集積所が破壊し、細みとする補給もまた断た



● 南洋の戦況は、日本軍の進軍が速く、敵軍の補給線が断たれ、戦況は有利に進んでいる

● 南洋の戦況は、日本軍の進軍が速く、敵軍の補給線が断たれ、戦況は有利に進んでいる



● 南洋の戦況は、日本軍の進軍が速く、敵軍の補給線が断たれ、戦況は有利に進んでいる



● 南洋の戦況は、日本軍の進軍が速く、敵軍の補給線が断たれ、戦況は有利に進んでいる

● 南洋の戦況は、日本軍の進軍が速く、敵軍の補給線が断たれ、戦況は有利に進んでいる

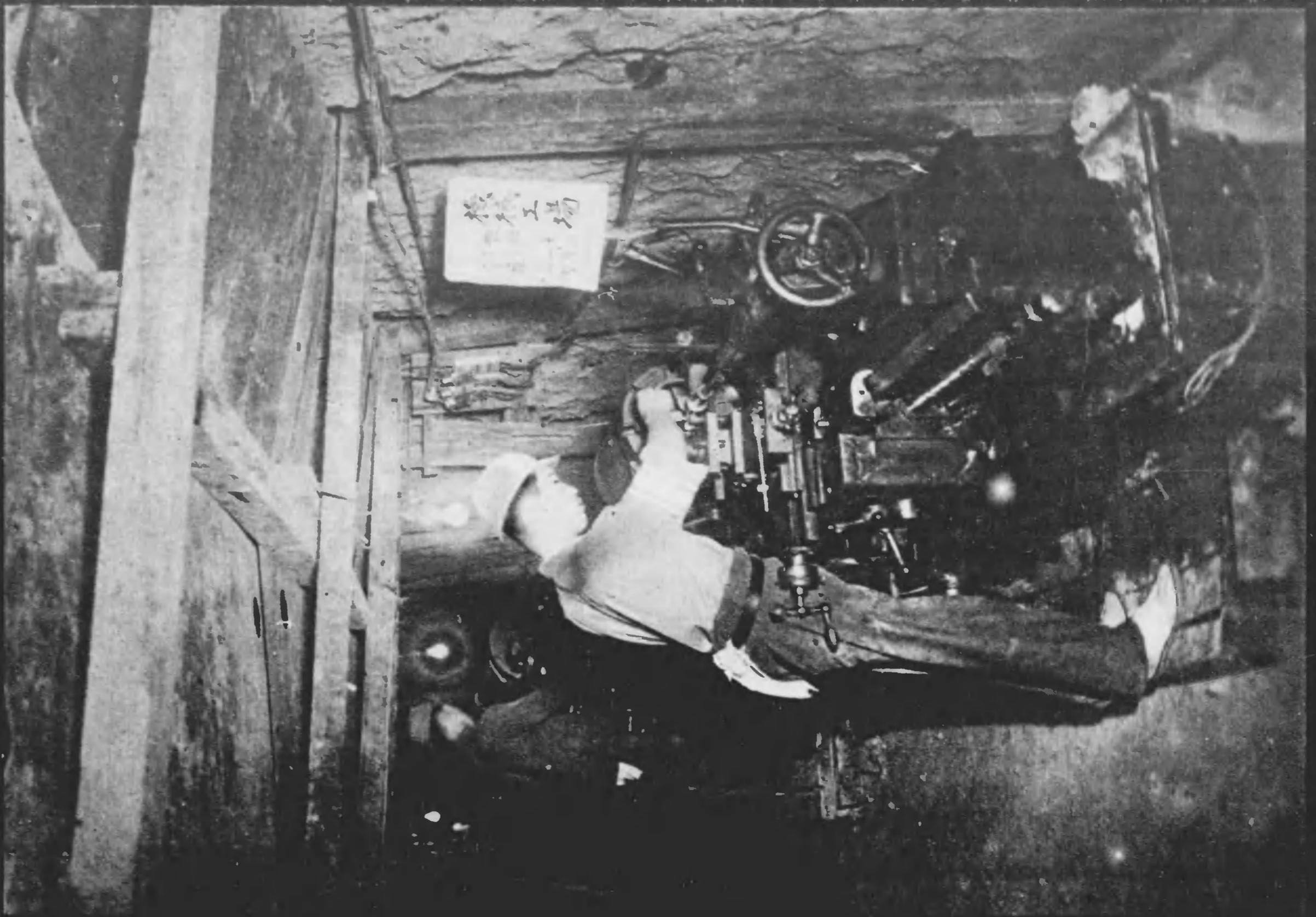
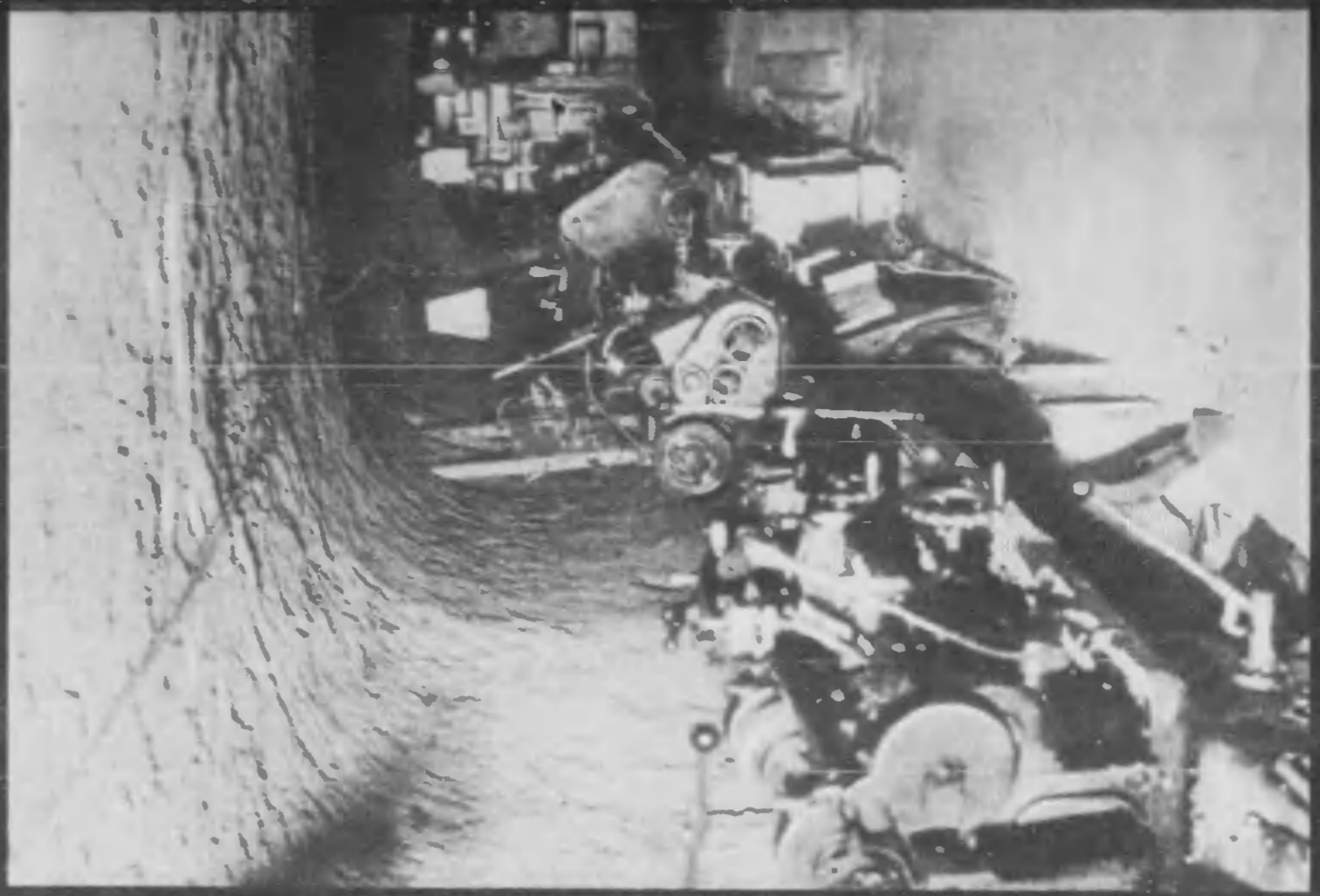


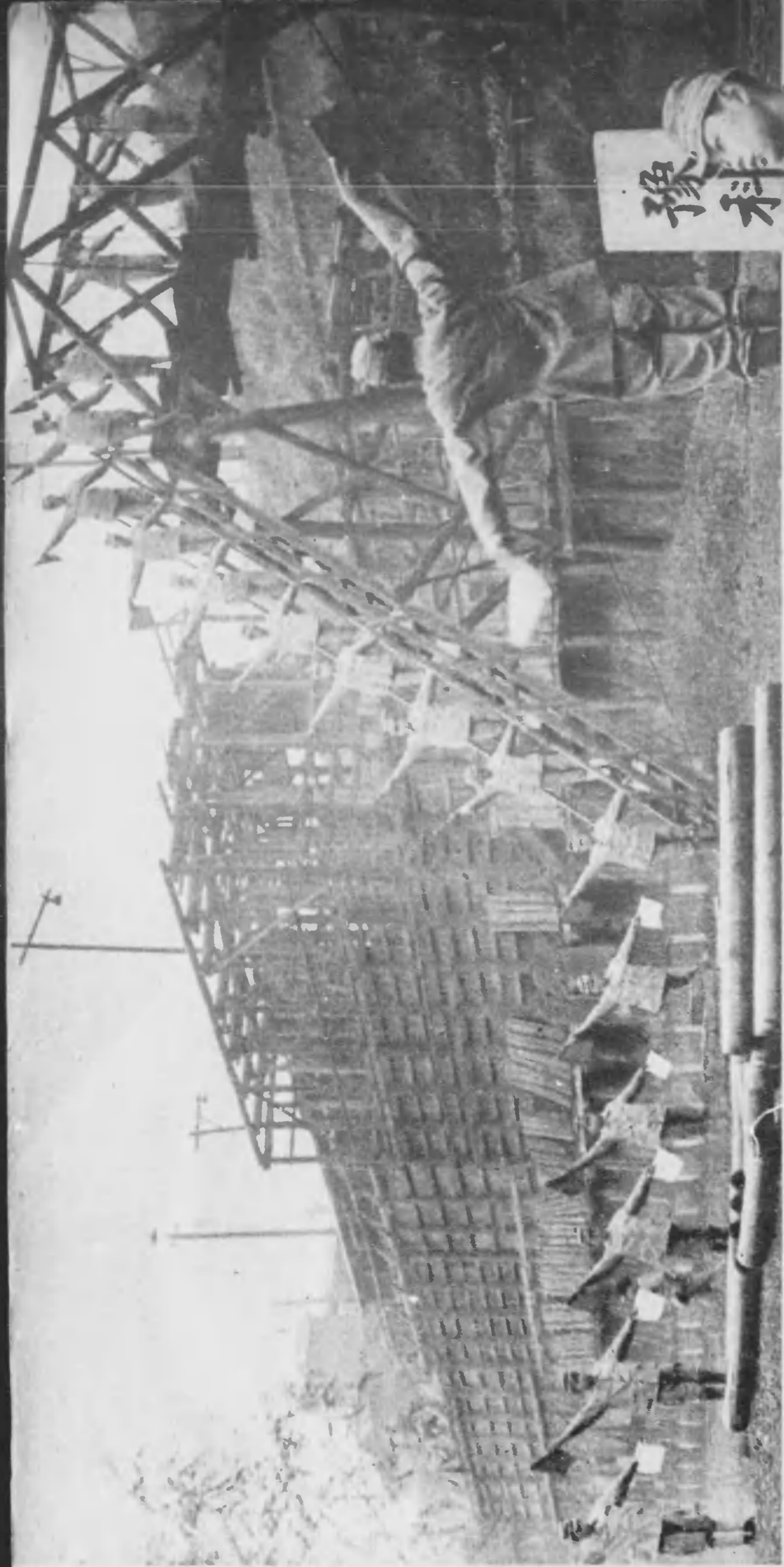
● 南洋の戦況は、日本軍の進軍が速く、敵軍の補給線が断たれ、戦況は有利に進んでいる

闘敢の士勇



雄鶏を以て闘敢は闘され、一人六十坪の
 畑付まで、米を主食としや、芋、ウタ
 とよみで畑立のて食糧は困らない。
 畑は稲で代へ、めいめいが鶏を三羽
 飼つて、一日四の卵を食へられるやう
 になるのも近い





豫科練習隊

常務炭礦 湯本炭礦

◻ 海の豫科練に形とつて炭礦の豫科練生も七つ如の訓練です

◻ 訓練のなり、トロの働き、増産競争の中に手紙 信箋 録音機等、豫科練魂の練成

神風特別攻撃隊の人たちは大い海軍飛行豫科練習生の出身で、必死必中の類なき精神もまた常に豫科練時代に鍛錬して得た賜ものでした。七つ如の制服に豫科練の名もそのままに職場の基礎訓練を受けてゐる少年たちがあります。常務炭礦の豫科練習隊がそれです。常務炭礦の湯本炭礦では、炭礦経営の國民学校高等科を卒業すると、一人残らずこの豫科練習隊に入隊して、兵舎と呼ばれる合宿所に入ります。何から何まで軍隊的な訓練を受けながら、炭礦戦士としての勉強をします。

何しろ今年の三月にできたばかりで、まだ豫科一期生が百名ほどに過ぎませんが、三年経ては練習生も千名以上になるといひます。「豫科練の名を取つかしめるな」元氣一杯、毎日力のかぎり訓練してゐる隊員は、戦争に勝つための石炭を、いまに僕らの手で信も掘つてみせるぞと張り切つてゐます。

◻ 炭礦技術者としての訓練はまづ学課から、炭道に用ひる種の種類勉強



ぞる掘でい当体 練科予象の山鉦し母頼

◻ 更に實地訓練、選炭場コンベアの機械教育



◻ 坑内へ一隊官の注意を向け、若入らしい張り切つた気持で下る



◻ ひとくする地帯に多量な汗を流しつつ、炭礦の第一級切羽の選炭場員にあたる豫科練生

雪にも冬の手入れ

麦と野菜を護りませう

もうすつかり冬です。寒さは日一日と加はり雪国では雪も間近に迫り、関東地方では名物の霜柱が大地を待ちあげ始めました。...

麦の手入れ

播種も関東地方を除き、一段落となりまし。これからの麦の手入れは何といつても、寒さや雪から保護することが大切です。

一、寒さに對する手入れ

イ 土入れ 初期土入れの要領は、畦や畦の土をよくこなし、麦の上から薄く平に封じして撫りこみます。...

ロ 草刈り 関東地方のやりに霜柱の多い地方では、遅くとも霜柱をみては、霜刈りつけをして、霜で凍りあがらぬやりに、細心の注意

を拂はねばなりません。草刈りは地上部の徒長(のびすぎ)を抑へ、根張りをよくして生育を丈夫にしますから、暖い地方でもぜひ実行したいものです。...

二、雪害に對する手入れ

最近、品種の改良が進み、雪に強い品種も着目しましたが、雪害が多いか少ないかによつて、その地方の雪害の程度が決定されるのですから、農家の織布や、深雪ひ、或は消雪用機土の採取など、必要な手を必ず行ひませう。

イ 織物の敷き これは雪害の軽減を防ぐために行ふのであつて、麦全体によくかけるのは勿論のこと、麦の株間の土面にも十分織布することが必要です。...

一、二週間前の一、四、根雪直前に一、四、併せて二回行ひます。織布の際、出来の軟かいものや、播種の時期を失したものは、或は耐雪性の十分でない品種については、特に入念に雪害を防止するやりに心掛けねばなりません。

に接して、雪害の侵入を助長する結果となりませんので、雪国地方では特に注意を要します。

三、不整地帯に對する注意

今年は努力集積もあつて、不整地帯も狭く行はれておりますが、元肥の施用や、深明けなどは精力ないで行ふことが必要です。

野菜の防寒

関東地方では、十一月も年を過ぎると、結霜期に入り、その後、四月上旬まではしばらく霜に見舞はれるので、寒さに強いものは、枯死してしまひ、寒さに弱いものでも、一、二月の低温にはかなり傷められます。...

従前はこの時分になると、荏刈りや小笠原諸島方面からの入荷や、また温室、暖房などで作られたものが出てまゐりましたので、かなり補はれておりましたが、現在ではそれも出来なくなつてしまひました。...

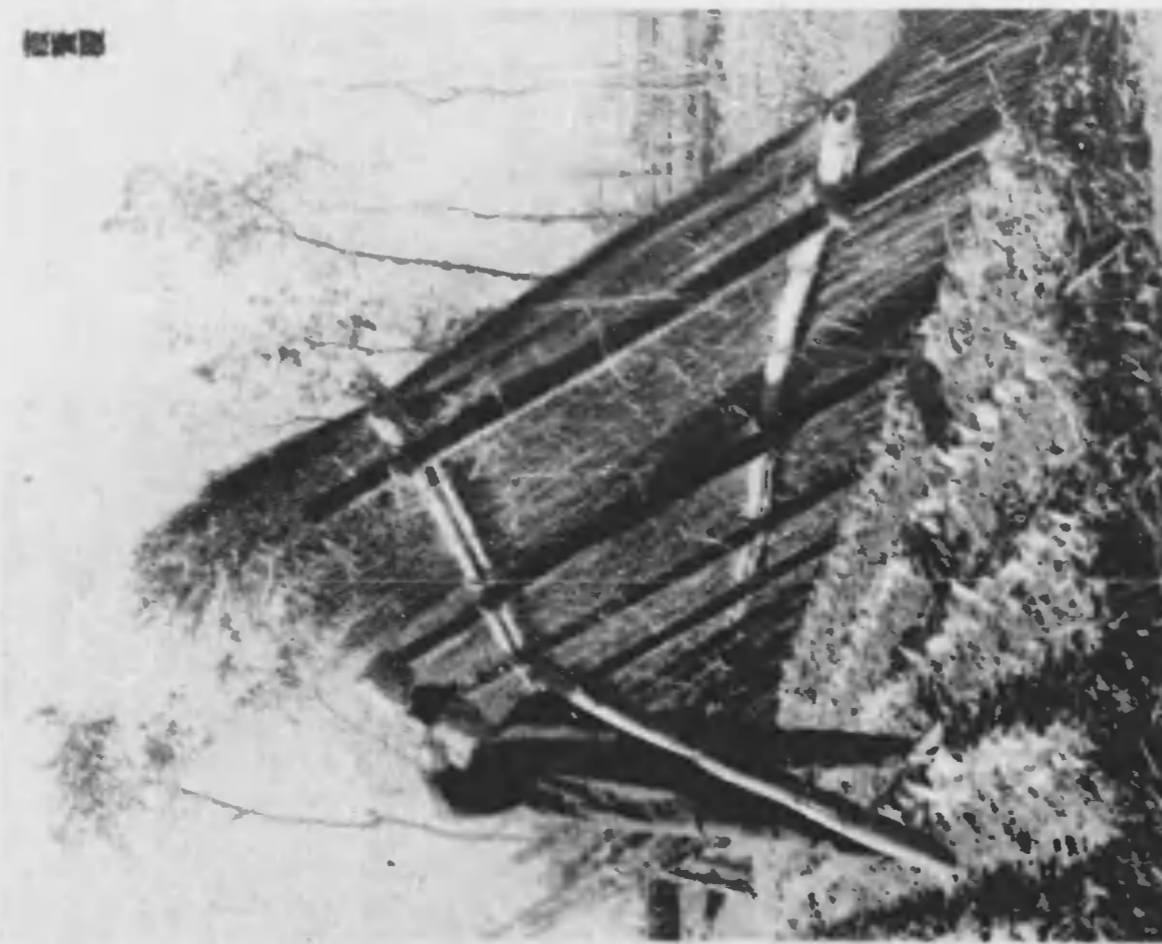
や手の空いてゐる方は、ぜひ実行していただきたいことです。

この野菜の防寒の仕方とは種々ありますが、関東でも出来る方法を二つ、次に説明します。

一、荏刈り 荏刈りや荏刈りや小笠原、小笠原などの島のとことろに葉のついた荏刈りを立てて、ちやうど障子の中のやうな状態にして暖風と障害



を防ぐ方法で、これは雨や風を防ぐばかりでなく、中の温度も幾分高まるので、生育もよほど速みます。...

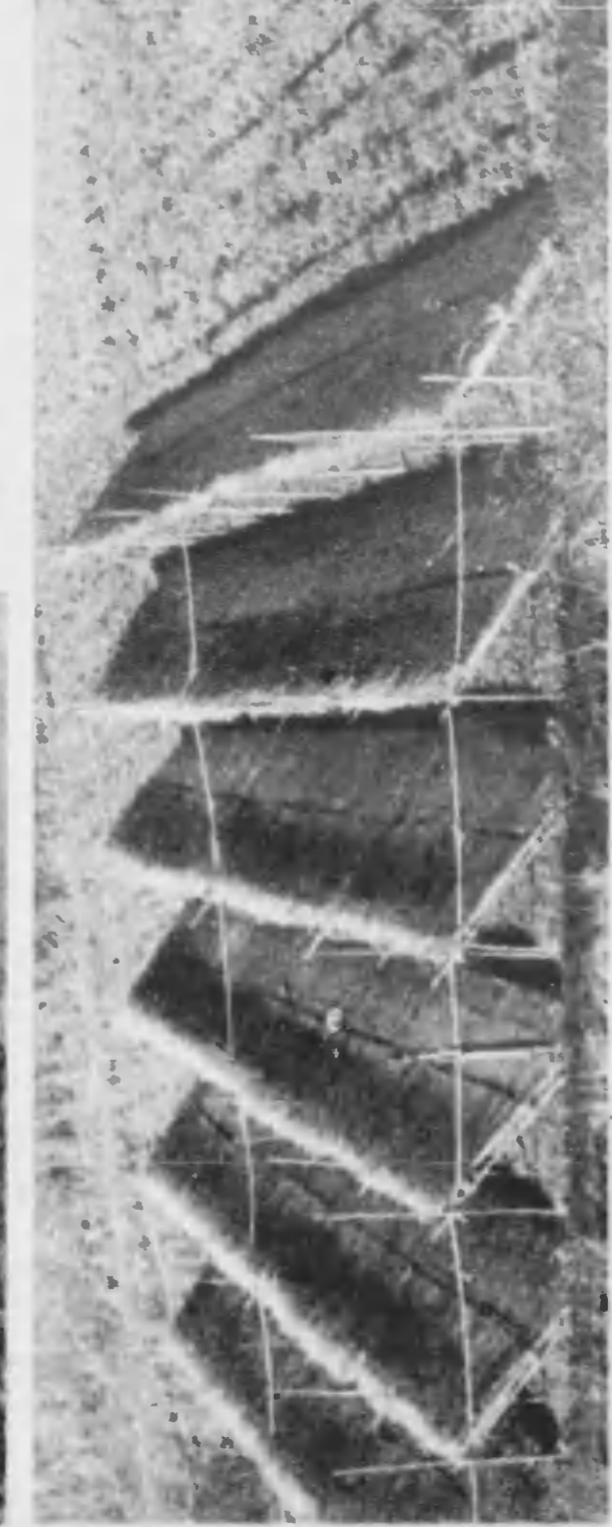


て、風やトイトなどの事件に利用することがあります。もし荏刈りが手に入らなかつたら、細い荏刈りでも、木の枝でも、葉のついてゐるものなら何でも結構です。...

二、遮光網 これは「遮光」といつて、東京都の荏刈り、江戸川南側から千葉県にかけて盛んに行はれてゐます。...

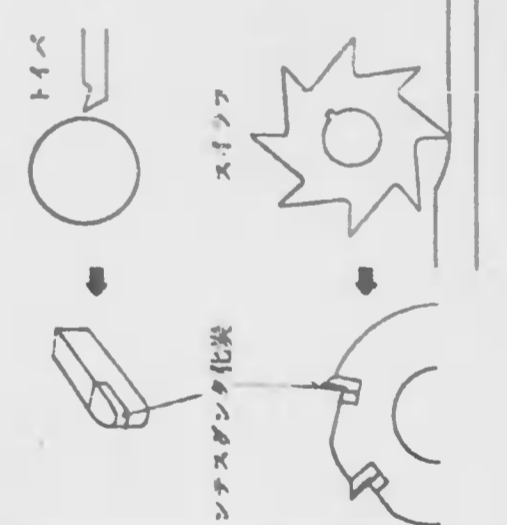
霞霞でなくとも、刈つたまゝの荏刈りを使つてもよく、また玉環や玉環などの物でも結構です。...

以上申し述べたやうな方法で野菜の防寒設備を作り、暖房期にも青々とした新鮮な野菜を豊富に食べられるやりに努めようではありませんか。



切削工具

流行機にしても、軍艦にしても、またどんな機械を造るにしても、切削工具を使はないものはありませんが、硬い金属などを思ふやうな形に切削できるのはなぜでせうか。...



炭化タンダステンが非常に硬いものだといふことは前から知られておりましたが、硬いので實用にならなかつたのです。ところが、鋼の焼入れの際に、ダイヤモンドが足りなくなり、ダイヤモンド・ダイヤに代つて、電鍍のごく細いタンダステン線を造るものを必死で探した結果、オースラム電鍍會社が炭化タンダステンとコバルトを結ばせることに成功しました。...

子煩悩

米の粒の十になるおみつが、いつのまにか見えなくなつた。
 『おみつちゃんなら、小澤口のほらへ歩いて行つた。おほかた、伯母さんの家へ行つたんだ』
 と、教えてくれる近所の人があつた。小澤口といふのは隣村である。そこは伯母の家へ登って行つてみたが、おみつは来なかつたといふ。
 『心配しなえだつて、すぐ歸つてくるに、いちいち、さら家してゐた日には、きりがねえがね』
 伯母は、はかばかしがつて、稲藪の手をやすめもしない。それを見ると、おみつは腹をたたくてて
 『せいせい、稲藪をやらなせえよ。どろせ、おみつなんざあ、わてもななかつたて同じことだ』
 と言ふと、伯母は眼をむいて
 『ああ、さらども、邪魔をしなえで、歸つてもらふべえ』

と、念にはけしい勢ひで稲をたたくけるやうにして抜くので、おみつの母まで叩かれるやうな氣さへした。
 おみつの母は、筆を奪って歸つてきた。いつたい、おみつは黙つてどこへ行つたのだらう。稲藪の手傳ひをさきながら、ついでに稲藪をいよと、それきりなななかつたのである。あれくらゐの叱責を氣にする娘ではなかつたのと、母は暗く真しい氣持になつて、のろのろと稲藪き場のはらへ歩いて行つた。
 日は短かく、夕方はせまつてくる。そこへ伯母がやつてきて、おみつの母が稲を扱いてゐるところへ
 『いくら忙しからつて、あんまり子供に叱責をいひなさんな。おみつは連れてきてやつたから、それでよかんべ。おれの採へきてゐたが、さつきは出してやらなかつたよ。よく稲藪きを手傳つてくれた。あつとは考へて、叱責をいふもんだ』
 と、べらべら言ひなで、おみつをおいて、引きかへして行つた。

決意下の會同 諸君式 新郷は歸入れの開眼に臨み、新郷はペンベ委に防務部といふ決意下に組織しい通し、職業ないで、た、これは去る十二月六日、東京都商工振興会主催の第三回商工組合東京開拓團員十二組の合同結婚式で、この日、農機下にも協賛し、同二回とせず、同社の神前で厳粛に式は行はれた。



皆さんの御愛顧... 御愛顧してこの際請を打閉して下さい

「それ、まだはま...」
 「はい、おみつは...」
 「おみつは...」
 「おみつは...」
 「おみつは...」

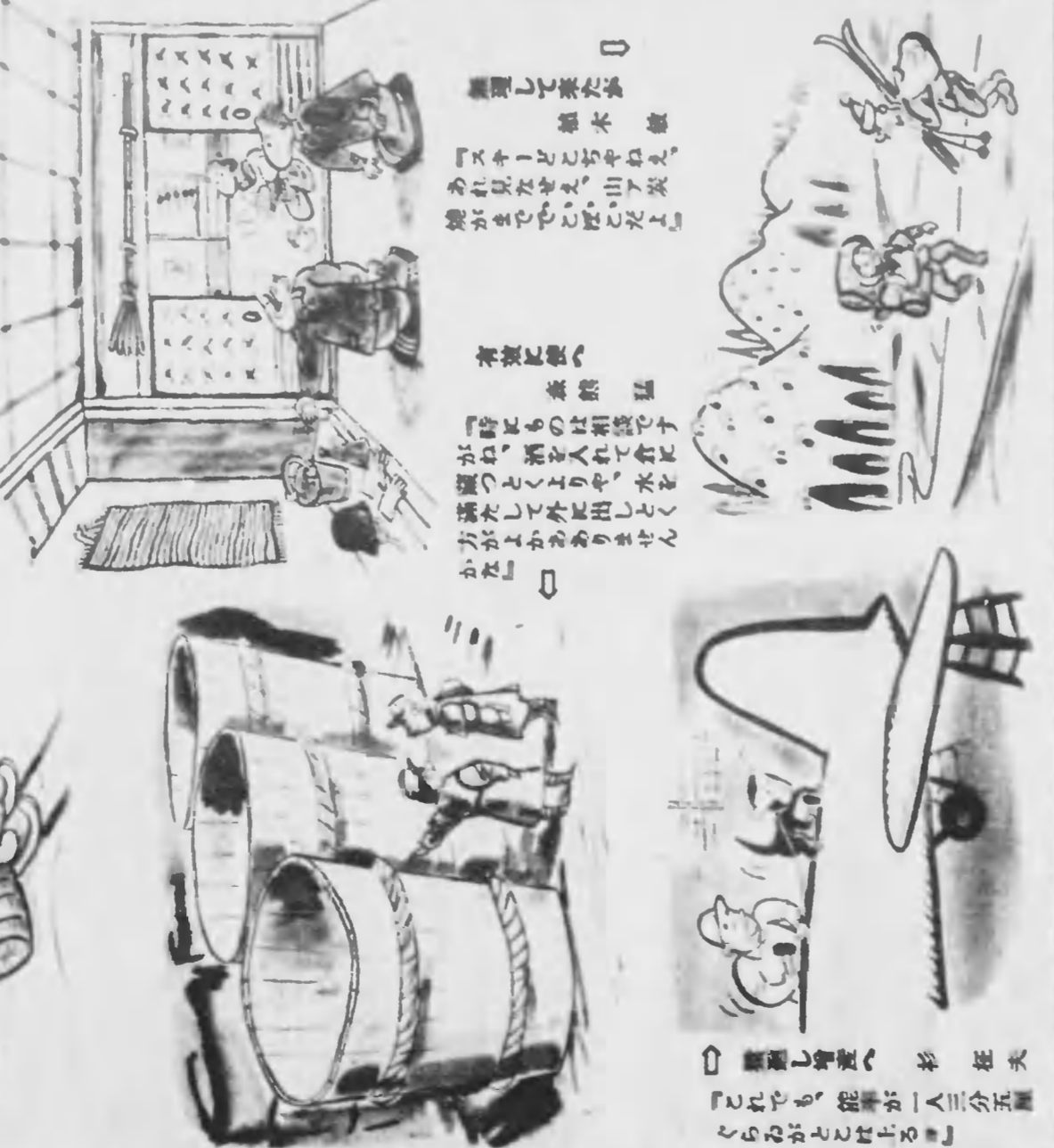
前編 稲藪き場

弾丸



弾丸 防空座敷 小泉 栄助 物の掛、鐘の音、石は長さんのお宅、恐ろしいお宅、

本編 植木 敏 町や表いだべ、工場は困つてるだべ、うんとこ運んでやるべ



「アキドとちおねえ、あれ見なせえ、山、山、山がまでで、山だよ」

有難に候へ 森 敏 秘 時どものは相談です、酒を入れて食は、酒つとくよりや、水を、講究して外に出しとく、方がよかありません

「これでも、能率が一三分五厘くらゐがとばさる」

海上に揚がる狼火

国産民産 大映 作品 聯合影業社 映大

大正二年、英米露の軍が東洋に押し寄せ、高砂は露軍の属領として上海に運ばれる中で、五代、中津川の一青年と邂逅つた。上野の風俗と、同じ東京の野であつた。その時、露軍の軍火が、上海に揚がる。露軍の軍火が、上海に揚がる。露軍の軍火が、上海に揚がる。

この映画は、全東洋民衆に英米の愛を伝えるための巨作を認識せしめ、露軍の軍火が上海に揚がることとして、國民の意見を傾かする。